

# 自分たちの強みを意識しながら 100年時代を見据えた 「健康経営」を行っています

当社は来たる11月21日に京都経済センターで開催される

「第11回きょうと健康づくり実践企業表彰」で最優秀賞を受賞することとなりました。

京都府内において、社員の健康づくりに関してナンバーワンの評価をいただいたことを光栄に思います。

今号は当社の「健康経営」についての、これまで、そしてこれからをご紹介します。

「当社には『我らの信条』という社是、基本理念があります。そのいちばん初めに出てくるのが〈我らはよい自己をつくる、健康を増進し、品性を養い、知識を求め、技術をみがいて、健全な人格をつくる〉です。いのいちばんに〈健康〉を謳っています。まだ「健康経営」という言葉がない時代、60年以上も前から、当社の社員は毎朝この言葉を唱和してきました。ですから2019年に健康経営推進委員会を設け『健康経営』に取り組んでいこうとなったとき、ゼロからの立ち上げでではなく、既に下地ができており、違和感なく取り組むことができました。そしてこの取り組みにおいて大事にしているのは、人生100年時代を見据えること。会社（日東精工）に勤めているときだけではなく、定年で会社を離れてからも、ずっと健康でいられるような枠組みにしていきたいと考えています」（人事総務部労務課課長 片山奈巳）。

健康に対する基本的な考えはぶれることはありません。しかし、そのための方法は常にそのときに合ったものに更新していくことが肝要です。当社では4年前から「Nicotto7※」という、こころと体の健康づくりのための独自の取り組みを行っています。また当社の最近の健康診断受診率は100%ですが、そのなかで、再検査になった人についても必ず受診してもらうようにしています。

また生活習慣病などの疾病発生予防のため、特定保健指導対象の従業員には積極的に関わり、病気の芽を早い段階で摘み取るようにしています。病気になった従業員に対しても、安心して治療に専念で

きるような、そして快癒後には無理なく職場復帰ができるような体制づくりも行っています。そのほかにも、健康セミナーや両立支援セミナー（治療・介護）なども実施しています。

こういった取り組みが既述したように「第11回きょうと健康づくり実践企業表彰 最優秀賞受賞」をはじめ、経済産業省の「なでしこ銘柄」や「健康優良法人ホワイト500」、厚生労働省の「くるみん」あるいはスポーツ庁の「スポーツエールカンパニー」などの認定にもつながっているわけです。外部から評価をいただくことは、自分たちの取り組みへの励みや自信につながります。そして自分たちの強み、あるいは足りない点などをあらためて確認することもできるのです。

既述の『我らの信条』では、健康についてさら



※Nicotto7 健康で充実した人生を送るために設定した7つの取り組み項目（運動、夕食、朝食、飲酒、メンタルヘルス、禁煙、睡眠）。



健康経営担当の片山奈巳（人事総務部労務課課長・左）と藤原美穂（同労務課主任・看護師。産業カウンセラー）

に噛み砕いた解説がされていて、かいつまんでいえば、休みの質の向上について記されています。いくら休んでいても会社のことが頭から離れない、休みが終わって明日から出勤というときに「あ〜会社に行くのがいやだな」というのでは残念で、一人ひとりが、休むことで英気を養ってまたがんばろうと前向きになるのが理想です。

日本は今年の個人GDPが世界で38位と低迷しています。ワークライフバランス、働き方改革を進め、休みが多くなって働かなくなったからだとして短期的に結びつける人もいますが、大事なのはワークライフバランスの「中身」でもあります。

「これから力を入れて取り組んでいこうと思っているのは労働生産性の向上です。従業員がストレスチェックを受け、『WFun※』を分析することで、自分たちの職場の強み、弱みが認識できるようになるものです。〈いまのままだと労働損失が年間で数十日分となる。ここを改善していけばその損

※[WFun] (Work Functioning Impairment Scale) は、産業医科大学で開発された健康問題による労働機能障害の程度を測定するための調査票

失が何日分減らしていけるのでは」というような共通認識を皆でもち職場改善につなげていく。健康を考えることが生産性アップにつながっていくということが実証できるものです」（労務課主任看護師 産業カウンセラー 藤原美穂）。

無意識のうちに相手を傷つけていないか、セクハラ、パワハラなどのハラスメント対策、あるいは事故などを起こさないようにする安全対策、さまざまな価値観を認めていくダイバーシティインクルージョン、そういったものすべてが健康に直結しているのです。そして健康が社会貢献へとつながっていくわけです。

先般、開催された京都経営者協会の「第87回北部部会」では当社の藤原美穂が「健康経営の取り組み」と題した講演を行いました。当社の健康経営の取り組みを自分たちだけでなく、広く伝え共有してもらうこと、これもまた社会貢献になるものだと考えています。



講演をする藤原美穂

## NITTOSEIKO'S CSR

## 消防団 消防操法大会準優勝に貢献しました。

当社制御システム事業本部製造部上原豪輝が京都府消防操法大会「小型ポンプ操法の部」に綾部市代表（八田分団）の一員として出場。準優勝を獲得しました。1位とは惜しくもわずか0.5ポイントの僅差でしたが、それでも準優勝は18年ぶり2回目の快挙です。当社では従業員の地域貢献活動を評価対象とする教育単位制度を設けています。

例えば、地域の河川清掃やモデルフォレスト活動、あるいはお祭りなどへの参加も単位認定し、昇格試験の受験条件としています。ただ会社の仕事をこなせばいいということではなく、広い視野をもって社会に貢献することも大切にしています。



地元、あやべ市民新聞に掲載

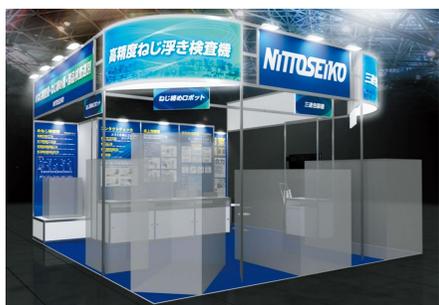
## 大阪「計測・検査・センサ展」 そして、ドイツの「IZB」にも出展

設備、計測製品などを扱う企業約1,200社が集う西日本最大の「ものづくりワールド大阪『計測・検査・センサ展』」（2024年10月2日から10月4日までインテックス大阪で開催）に当社もファスナー・産機・制御製品の出展をいたしました。

単軸自動ねじ締め機（参考出展。推力はぼゼロでワークにやさしい締結を実現）や、自動ねじ締めロボット「ねじロボ® SR580Yθ-Z」（超高精度ねじ浮き検出 & コンタミ対策モデル）、「めねじ検査装置」、部品検査選別装置「ミストルAI」、振動検査装置「キズミルII」などを出展。

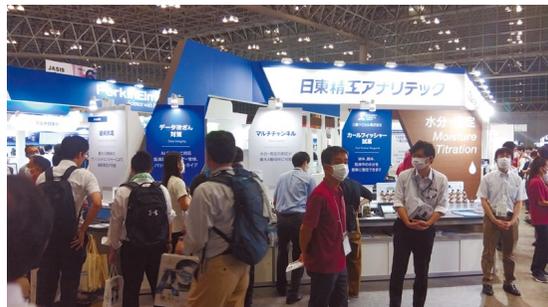
また10月22日から24日はドイツの「アラーパーク」（ゾールルスブルク）で開催される「International Supplier Fair (IZB)」にも出展を予定しています。

展示会を通して当社事業を広くアピールし、新しいお客様との出会いを期待しています。



## 日東精工アナリテックが 「JASIS 2024」に出展

分析機器、科学機器メーカーが一堂に会する最先端科学・分析システム&ソリューション展が「JASIS」です。9月4日から6日まで幕張メッセにて「JASIS 2024」が開催され、日東精工グループの日東精工アナリテックは新製品の自動試料燃焼装置など各種分析装置を出展しました。2025年に販売予定の簡易型水分測定装置CA/KF-51と自動試料燃焼装置AQF-5000Hのオプションとして吸収液コレクターAC-500などを参考出品。また、9月5日に同会場で開催された「新技術説明会」でも同社から登壇し、最新の「燃焼-イオンクロマトグラフシステム」の紹介をいたしました。



## 『KES・環境マネジメントシステム・ スタンダード更新登録』

日東精工グループの日東公進では「KESステップ2」の更新審査を受審し9月1日に合格判定を得ました。KESとはKyoto=京都、Environmental Management System=環境マネジメントシステム、Standard=スタンダードの略で、京都議定書の発祥地、京都から2001年に発信された「環境マネジメントシステム」の規格です。このシステムを導入し本年で22年目を迎えます。今後も継続して、環境リスクの回避、環境コストの削減、取引関係の強化、企業としての信用力をアップさせてまいります。

## タイの現地法人で 海外主幹者会議を行いました

9月20日にタイの現地法人NITTO SEIKO (THAILAND) CO.,LTDで、秋季海外主幹者会議を行いました。会議では、各地域の現地法人の代表者、当社幹部が一堂に会し、各社からの報告等による情報共有、共通課題として地政学リスクの把握と対応などについて討議を行いました。



## 無声呼人から有声呼人へ

代表取締役社長 荒賀 誠

「無声呼人」とは、徳を積み重ねて、いいかえれば、ことさら大きな声で宣伝しなくても、良いものをつくっていると自ずと人が集まってくる。京都の商家に額が飾られていたりします。しかしながら、近ごろはなかなかそうはいつておられない状況でもあるようです。

川瀬猪山せいのとという京人形の頭師かぶしがおられます。頭師のなかでも一目置かれる存在ですが、その4代目がホームページを開設し、SNSなどでも発信されるようになりました。いまさら名前を売る必要もないのではと素朴な疑問もあったのですが、じつは、これはニセモノ対策を兼ねてだ

そう。もちろん現物を見比べれば、すぐに見分けられるのですが、ホンモノを見たことのない人が「これが猪山さんの顔」と言われ、ニセモノをホンモノだと信じこんでしまうことが増えてきた。騙されるお客さんは気の毒だし、猪山の名前にも傷がつくことになります。だから、「ホンモノはこういうもの」と発信する必要があるとのことでした。そしてホームページを開設したことで海外からの問合せが増えるという新たな展開も生まれているそう。

「無声呼人」という言葉の奥にあるモノづくりへの真摯な姿勢は残しつつ、いまは「有声呼人」、発信力の強化も欠かすことはできません。

頭師とは人形の顔の部分を担当する職人さん

## 「幸せ」を見つけるヒント 10月

## 身近なところに口福・幸福の種がある

食いしん坊の人から見ると、あやべはじつは「食の偏差値がとても高い」そうなのです。自然豊かで山の幸・海の幸に恵まれているというだけでなく、それをしっかり地元で食べさせくれる「場」がきちんとある。小さな街にもかかわらず料理旅館は5軒もあってそれが共存しているのはとても珍しいことですし、郊外には都会からわざわざグルメ有名人が訪れる、知る人ぞ知る穴場がたくさんできています。金曜日にししか開けない甘味処があったり、全国でも取り扱いが少ないオーガニックワインをおいている

酒屋さんがあったり……、長く住んでいると、そうなのかなあと見落としていたり、気づかなかったりすることが案外多く、そのなかには他所にはない自慢できるものもあるようです。

仕事もそうですが、ふだんの暮らしのなかでも、ときどき敢えて視点を変えてみる、立ち位置を変えるということも必要なのでしょう。それだけのことで、新しい口福、いえ幸福の種が見つかるかもしれません。



北大路魯山人が日本一と称した鮎

日東精工代表取締役会長 綾部商工会議所会頭 材木正己

